みんなの文芸

俳句・短歌を募集

3日必着

作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名・電話番号を明記して企画財政課までお寄せください。
1人1句、1首に限ります。

俳句 根岸茉莉 選　投稿数 38 句

木枯しや群雲流し空が鳴く　皆野　花垣好比古

(評)冬の訪れを告げる冷たい北風(木枯し)に、垂れ込めた雲が川のように流されて行く光景を眺めた作者。雲の動きや風の音に空が鳴いていると感じたのでしょう。寒くて寂しい山間の冬はちょっと心が重くなりますが、冬ならではの楽しい行事に向けて頑張りましょう。二句目、丹精して育て金色に垂れ下がった稲の収穫を終えてほっと一息。刈り取られた広い田圃に安堵感と秋の終わりの寂しさと共に、棚田の存続なども憂慮している作者です。憂いは人生の先を思わせる様な哲学的な表現ですね。三句目、現代社会の先行きの見えない不安定・複雑さの中、初の女性総理の誕生です。驚きと共に秋深むに静かな思いが感じられます。国民の幸のための政治を行なって欲しいですね。

稲刈りを終えし棚田の憂ひかな　皆野　櫻井　早苗
混迷の世女総理や秋深む　皆野　根岸　詩子
日の入れば待てぬふうなり温め酒　皆野　引間　千鶴
白寿なる追憶限りなき夜長　三沢　新井　叶子
夜祭へ胸高鳴りし冬太鼓　国神　鈴木　正文
虎落笛(もがりぶえ)淋しき季節前奏す　皆野　中田　秀夫
勝ち抜きし女性総裁鵙(もず)日和　三沢　眞下　杏子
千切りの大根を干す冬日和　皆野　萩原　初恵
日暮道脇の刈田の落穂かな　下田野　新井　節子
熊が人襲ふ異常や冬隣　上日野沢　四方田利男
鴨の声何処を飛んでる闇夜かな　下日野沢　浅見　和雄
きのこなべじじと食べるとおいしいな　皆野小二年　泉谷　健斗
向日葵がみんなを見てるおはようと　三沢小五年　長島　千晏
風鈴がきれいな音色ひびかせる　三沢小四年　山口明沙空
蝉の声ジリジリしみる夕焼けに　三沢小六年　加藤　柚花

短　歌（投稿順）

慶安より獅子舞を継ぐ諏訪神社若き獅子らの軽やかに舞う(下三沢)　三沢　眞下　杏子
秋の月明るく照らす庭の松手入れしていた夫を忍ぶ夜　下田野　新井　節子
自由人(アウトロー)忌野になんてなれやしない老いるショックで俺はアウト老　皆野　石原　達也
誰知るや歴史の波に埋もれし美しき古歌秩父の郡歌　皆野　萩原　初恵
躓いて転びあちこち打撲せり老いて生きるも容易にあらず　下日野沢　浅見　豊子
しゃくしなと夕日を乗せて軽トラは漬け物工場へ走り行きたり　国神　藤原マキ子
朝涼しく早起きしても起きれずにＬＩＮＥで目覚めまた一眠り　皆野　大澤　貴夫
明治人(びと)最後の賀川滋子(しげこ)さん百十四支「未(ま)だ生きたい」と　皆野　根岸　詩子
孫達と傷付けぬよう、さつま掘り不作だけれどこぼれる笑顔　皆野　村田ハツ代
険し道登り下りし長年の苦楽は鮮明に甦りくる　三沢　新井　叶子
初めての長瀞吟行楽しみて平和しみじみ宝登の聖域　三沢　新井　民子
病室の窓から見ゆる秋空に自衛隊機低空を飛ぶ　上日野沢　四方田利男
今日もまた熊出没の被害聞く他所事(よそごと)でなし他人事(ひとごと)でなし　皆野　引間　万亀
岩木山向かふ夕陽の雲間より出でて染めたる弘前の城　皆野　打木　昭廣